

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473000584
法人名	社会福祉法人 横浜YMCA福祉会
事業所名	大和YMCAグループホーム
訪問調査日	平成19年11月22日
評価確定日	平成20年1月18日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 19年 12月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1473000584号
法人名	社会福祉法人 横浜YMCA福祉会
事業所名	大和YMCAグループホーム
所在地	大和市大和東3-3-16 (電話) 046-264-3192

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年1月18日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 31日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	19人	常勤 13人	非常勤 6人	常勤換算 16.6人

### (2) 建物概要

建物構造	(鉄筋コンクリート)造り
	4階建ての (3)階 ~ (4)階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要 (10月31日 現在)

利用者人数	17 名	男性	名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大和病院、家本循環器内科、真和クリニック、斉木歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所では、利用に当たって「ADLが有る程度自立していること」が条件の一つとなっているだけに、ADLの変化は時系列に把握され、維持向上を目標とした介護計画が立案、見直しされています。利用者の日々の生活は、家庭で担ってきた、買い物、洗濯、調理など出来ることは自主的に、又、自主的にできない利用者には声掛けにより何らかの役割を持って貰うように支援され、利用者自身がホームの中での存在感を自覚できるような生活となっています。健康で快適な生活面では、一般家庭と同様に利用者の全員が、毎日入浴されています。安全な生活の面では、地域の協力を得た防災訓練やスプリンクラー設置などソフトとハード面で守られています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>入居者の金銭管理の項目が前回の改善項目となっていました。今回の調査では、利用者への金銭管理の支援方法が「立て替え方式」になることが明確になっており、家族との取り決めや報告、清算方法も妥当なものとなっていました。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が参加する専門部会(排泄・不穏部会、壁面趣味活動部会、拘束部会、食事部会、行事部会、薬部会)が設けられ、そこでの意見を企画運営につなげる仕組みが構築されています。今回の自己評価方法は、この専門部会が主体となり、各部会に關係する項目の評価を行っています。この評価に職員の全員が参加できたことは、大きな収</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回の運営推進会議は、自治会、利用者の家族、民生委員などの参加を得て、回を重ねるにつれ定着化してきました。当事業所では、運営推進会議メンバーの協力で積極的な活動ができています。報告事項となっている利用者の状況などは、専門部会が中心となり報告しています。又事業所からは、季節に応じて、災害時の協力などを求めています。委員は率先して地域との交渉を進めると同時に、ホームと地域のための非常時の相互協力などのアドバイスをしています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームは、家族の意見を聞く機会作りとして、家族会を提案しましたが、頻りに訪問する家族が多く、家族同士の交流や意見交換もできているとのことで、現在家族会は作られておりません。ホームでは家族が訪問しやすい環境を整えることを心掛け、職員は、家族の面会時に意見や苦情を言って頂けるよう接しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームでは地域の一員として、商店、自治会、民生委員などの会議に参加しています。地域のお祭りの阿波踊りでは、自治会が利用者のために見学席を用意してくれるなど、地域の協力を得ています。日常生活では、毎日の散歩や、食材の買い物などで、地域の人々と触れ合う機会が多く、見守りなどで地域の協力を得ています。防災訓練では、地域の人々に館内を見学して頂き、災害時の非難誘導などの協力体制を築かれています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、開所当時に作成されているが、グループホームの介護の目的や認知症高齢者に必要な生活環境などが一般論的に述べられている。		現在に実行されている事業所(自分たち)が目指すサービスのあり方を端的に表現した独自の理念を作り上げていく事が望まれます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についての話し合いは、全職員が出席を義務付けられている毎月のカンファレンスや各専門部会(6部会)で行われている。		管理者と職員が理念の共有を深めたり、利用者家族や運営推進会議始め地域への理念の浸透を図るためにも、館内の表示やパンフレット、重要事項説明書等へ記載し、わかりやすく伝える工夫が望まれます。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	阿波踊り見学では、自治会が見学席を用意してくれるなどの協力を得ている。祭り等の催しの終了時には、ゴミの片付け等に職員が参加してお手伝いをしている。また、地域の防災ボランティア委員を引き受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各部会毎に関係欄を記入し、評価後に各部会やカンファレンスで、今後の取り組み等を話し合っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族や自治会等地域のメンバーの積極的な参加を得て、円滑に会議が運営されている。防災対策に関する地域への協力要請に関しても、即刻地域へ働きかけてくれたり、ホームへアドバイスや意見を与えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携を常に図っている。また「介護保険をよくする会」に関して市より意見を求められたり、来年はオブザーバーとしての参加を依頼されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問回数の少ない家族には、電話やFAXで随時に連絡を行っている。買い物は、利用者が購入可能な物品を、家族に了承を求め、購入品のレシートを月次請求書に添付請求する立替方式で支援している。職員の異動報告は、家族の面会時に異動したことの挨拶で通知に替えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には意見を伺っている。また、運営推進会議に於いても家族の意見を頂き、運営に反映している。		苦情相談窓口や解決方法は、重要事項説明書に記載されており、受付でも常時閲覧可能となっておりますが、家族の意見等が出やすい雰囲気づくりを狙いとして、目につきやすい所に、優しい文字で書かれた説明書を掲示するなどの工夫が期待されます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の配置転換の際にも、配置転換後も関わりを持てる様に配慮している等、職員の異動による影響を最小限に抑える様に工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内はもとより法人外の研修の参加を勧めている。また毎月行われる専門部会でも拘束や介護について学ぶ機会を設けている。		管理者・職員・嘱託職員を含め、研修計画や職員別の研修記録を作成し、段階に応じて育成していくシステム構築が望まれます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加をし、他施設との情報交換等、交流を図っている。		他施設とのネットワーク作りに努め、職員の他施設での研修や訪問交流などを図り、サービスの質の向上への取り組みが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者が見学に来た際には、他の利用者と一緒に過ごして頂き、場の雰囲気に馴染めるように配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々敬意と感謝を言葉に出し伝えている。また、レクリエーション・行事等、職員自らが楽しんで行う事により、利用者と時間を共有している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族を交えた語らいの中などから、利用者や家族の夫々の思いや意向を汲み取ると共に、新たに把握した事柄などは、毎月のカンファレンスで対応を話し合い、職員全員の情報共有化に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員出席のカンファレンスでは、居宅担当者によるモニタリングなどで職員の意見を集約し、本人や家族の意向に沿った介護計画が立案されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の能力や身体機能を3ヶ月単位で調査記録し、変化の状況を時系列に把握している。そこで把握した変化をカンファレンスや介護計画に役立て、長短期目標の見直しを行っている。変化が早期に把握できているので、早め見直しが可能となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	大和YMCAライフサポートセンターには、グループホームの他にデイサービス、ケアプランサービス、地域包括支援サービスなどの事業があり、全体で多機能性を発揮しているため、グループホーム単独での多機能性を活かすサービスへの取り組みはなされていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医への受診を希望する場合には、家族の同行を求めているが、本人や家族の意向を大切にして受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針として、寝たきりなどの身体状況の悪化の場合には他へ移ってもらっているため、現段階では重度化や終末期に向けた対応には応じていない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の年齢層が比較的高く、会話も落ち着いた丁寧な口調で対応している。個人情報の取り扱いに関しても、職員はもちろんのこと、実習生やボランティアにも誓約書を求め、漏洩防止に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決められているが、役割や楽しみ事は、自らの意思や希望で参加しているケースが多く見受けられ、日々の生活の全体の流れでも、利用者それぞれのペースを重視した支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食以外の朝昼食は、職員と利用者がメニューを考えたり、食材の買出しや調理、後片付けなど一連の仕事を協同で行っている。食事は、職員と一緒に楽しく語らいながら食べている。職員が利用者と、同じものを一緒に食べることを容易にするため、職員の食費負担の軽減策がとられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調の悪い時や入浴拒否の強い時以外は、利用者のほとんど全員が毎日入浴している。バイタルチェックが入浴前にも行われるなど体調管理もきめ細かく行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯、買い物、調理等の役割を自主的にやる人、能力に合わせた声掛けによりやる人と、色々であるが、何らかのことが行えるように支援している。朝昼食の食材の買出しも散歩を兼ねて交代で出かけている。ベランダでは、季節ごとの野菜や草花が栽培され、その収穫を共に楽しみ喜び合っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが商業地域にあり買い物などに便利なため、日課として、朝食後一休みしてから毎日の食材の買出しに出掛けている。時には利用者の好みで予定外の材料を買いメニューを変更したりもしている。又午後からは、散歩や近隣の商店での日用品の買い物の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が交通量の多い道路に近いことや、不審者の侵入防止のため、エレベータホールへの出入りドアはオートロックにしているが、家族に説明し了解を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下で、年に2回火災や防災訓練を近隣の方々の協力を得て行っている。利用者も参加した階段利用の避難訓練も実施されている。近隣住民とは、災害時の相互協力として緊急対策のあり方などが話し合われている。火災消火設備としてスプリンクラーも設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事の提供に心掛け、1日10種類の食材を摂ることに努めている。カロリー計算は、併設のデイサービスの栄養士や系列の保育園の栄養士にアドバイスを受けている。水分摂取は、必要に応じて夜間帯でも支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や台所、居間・食堂などは、空調や照明などにも気遣いを感じられる。食事中は習慣としてテレビを消している。食事以外の時間帯でも付けっぱなしではなく、皆で見たい番組を選んで楽しむようにしている。壁面は利用者の作品や行事の写真などが掲示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、面積が12.87㎡(約8畳)と広く、ゆったりとした空間が確保されている。		本人や家族とも相談し、馴染みや思い出の物品などで、利用者に合った生活の場としての居室の雰囲気づくりに工夫が望まれます。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	大和YMCAグループホーム
(ユニット名)	Aユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県大和市大和東
記入者名 (管理者)	赤木 真紀子
記入日	平成 19年 10月 31日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念にもりこまれている。「個々に体験した想い、暮らしていた地域、馴染みの友人、行きなれた商店、公園などをその暮らしの中で展開できる家庭に近い環境を必要としている。」		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のカンファレンス、専門部会で常時話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の自治会、民生委員、ボランティア団体に説明し、理解を頂いている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議に、自治会、ご家族、民生委員に参加していただき、話し合いの場を持っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	災害時の協力などを求めると共に、施設、入居者の状況説明を行い、理解していただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	阿波踊り見学など、自治会の協力により見学席を用意していただいている。商店、自治会、民生委員などの会議への参加。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	包括支援センターと共に介護者教室を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は専門部会ごとに関係欄を記入し、評価後、専門部会、カンファレンスで話し合っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に会議を開いている。2ヶ月間の活動報告、問題点などを話し合い、意見をいただいている。		今後も2ヶ月に一回定期的に開催し、ご家族、自治会、民生委員などの意見、アドバイスをいただいく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者を含め、グループホーム連絡会の開催。疑問点など、頻繁にコンタクトを取っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1ヶ月に1回開いている専門部会で、勉強会を開いている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加。月一回の専門部会で勉強会。入浴時全身確認、全身観察表をつけ皮下出血などワーカー全員で把握している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書に基づき説明行っている。また、見学など行い、その都度疑問点を伺い対応している。退去時には納得していただけるよう説明、働きかけ行い、退去後の支援をご家族と協力している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々、状況を見て声かけしている。ご家族の協力を得ながら、不満などはないか確認している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員異動は面会時に挨拶行う。金銭管理、請求書送付時に個人購入品レシート送付。入居者さんの状態は面会時説明、報告。体調変化については随時電話、fax連絡している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談、苦情窓口を明確にしている。面会時には随時意見を伺っている。運営推進会議においてご家族の意見をきき、反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>行事、日常業務はワーカーが主体で行うようにしている。随時ワーカーの意見をきき、また、面談も行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>4交代の勤務体制をとり、また、行事などで人員が必要なときにはワーカーを増員している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、ご家族へのダメージを防ぐ努力をしている。配置転換してもかかわりを持つなど行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を勧めている。また、一ヶ月に一回の専門部会で、拘束、介護についてなど学ぶ機会をもうけている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加。		グループホーム連絡会への参加、他施設と情報交換し、ネットワーク作りに努め、より良いサービス、方法を取り入れていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	随時相談、個別面談の実施。各部会員どうしの研修(レクレーション)への参加。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	専門部会において、各部会員の考えで運営し、自分たちの企画運営で日々の生活が行われている。役割のある仕事。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の話を傾聴、受けとめている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の悩み、思いなどを傾聴し、受けとめている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聴き、アセスメントし、その方にとってグループホーム入居が必要なのか話し合い対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来た際に他入居者と共に過ごしていただくなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	していただいたことに対し、敬意、感謝を示し役割を持って生活していただいている。レクリエーション、行事などワーカーが自ら楽しんで行うことにより、入居者さんと共有の時間を過ごしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事開催の連絡行い、ご家族にも参加していただいている。また、フラダンス、蕎麦うちなどご家族がボランティアとして活動してくれている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	随時ご家族に近況報告行い、ご家族の意見、お話を伺っている。挨拶の徹底行い、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会へご友人と外出するなど、ご家族様に確認しながら外出支援している。ご友人の面会時、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食席の配慮、また、ワーカーが間に入り入居者さん同士がコミュニケーションをとれるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族了承の元、他施設入所の方への面会。ご家族から連絡いただき、相談を受けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの人格を尊重し、いかに大切な方々であるかなど毎月の専門部会で研修し、カンファレンスで対応を話し合い、日常の介護にいかしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの確認、ご家族、入居者からの情報を共有している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月のカンファレンスで一人ひとりの変化など情報共有し、現状を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで一人ひとりモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。ご家族、主治医に近況報告しアドバイスをいただいている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンス後、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。毎日の申し送りにて緊急の対応が必要などときには、その都度対応し、申し送りの徹底を行っている。ご家族には面会時、電話連絡などで、状況報告、相談を随時行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録を個別に毎日記載。情報を共有している。個人ケースをもとに毎月の変化をカンファレンスで話しあい、統一した介護を行えるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ディサービスでのレクリエーションへの参加、包括支援センターの相談対応、退去検討時、ケアプランセンターケアマネ援助など受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアさんの訪問、消防署の協力による火災訓練など行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域ケアマネジャーからの相談の対応。訪問リハビリの調整など行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと情報交換行っている。介護者教室など協同で行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の調整、報告。主治医への状態報告、バイタル表準備など行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問診療の調整、報告。ワーカーの小さな疑問にも主治医に答えてもらっている。入居者の日常を報告し、アドバイスをいただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療看護師のアドバイス、ディサービス、包括、在支の看護師へ相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病院への情報提供行い、主治医からの状態説明などに同席している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の現状報告を随時行い、その都度、体調変化が見られた場合のこの話をしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の意見をもらい、毎月のカンファレンスで統一した介護を行えるように話し合っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族と面談行い、情報交換している。他施設への情報提供行っている。退去後の支援も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけは部会、カンファレンス、毎日の申し送りで意識するように話し合っている。記録などの個人情報は保護している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者さんの自己決定の尊重、ご本人の思いを聴きだせるように関わっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>まずは入居者さんありき、と考え、一人ひとりへの支援を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理容の調整、カットの長短などご本人の希望に沿って対応している。外部をご家族と利用する場合もある。化粧の支援など行っている。行事の時にはマニキュアを塗ったり、浴衣を着て楽しんでいただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々のADLに合わせ、食事準備、片づけを行っている。立位不安定な方は座って出来る食器拭きや、理解力低下の方は一対一対応で行っていただく。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒を希望される方はいらっしゃらない。夏祭りの時にはビールを提供している。喫煙者は他入居者に配慮し、玄関ホールで喫煙している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	部会において、排泄状況検証。個々の排泄パターンを把握し、個々にあわせた下着、オムツを使用している。誘導が必要が見極め、声かけ、誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っている。ご本人の希望をきき、入りたくない日には自己決定を尊重する。皆さんほぼ毎日入浴する。入浴を楽しみにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の決定にて居室で休息している。自身の体調がわからない方は、ワーカーが様子観察し、臥床を促す。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯、買い物、調理など、役割を持っていただけるように支援している。買い物へ外出、レクリエーションなど行い楽しんでいただいている。季節の野菜の家庭菜園を行い、収穫を楽しんでいる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時など、お金を使い、支払う機会を設けている。ご家族と相談して、必要な方には数千円程度を自己管理していただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が悪くなければ、午前中、毎日の食材を買いにご本人の意向を確認して外出する。午後には身の回りの品の購入、散歩、喫茶店へ出かけるなど支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせて外出行事を行っている(梨がり、花見など)。喫茶店にでかけることもある。また、洋服などを購入しに、大きなスーパーへ買い物、食事ツアーへでかける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内電話設置できるように回線はある。現在電話を設置している方はいない。電話使用希望時にはホームの電話を利用してかけていただけるように支援している。手紙を出したい方は支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	挨拶の徹底し、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。居室で過ごすこともあれば、他入居者と共に食堂で過ごすこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	専門部会で事例検証を行い、身体拘束に対する意識を持っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	専門部会、カンファレンスにて施錠に関する話をしている。居室はご本人に確認、希望時には施錠する。玄関の施錠はご家族様に説明、ご理解をいただいている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認、見守りの徹底。夜間2時間おき、また、状況によっては頻回に巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態によって、居室内に保管してあるものが違う。入居者の様子観察し、必要ときにはご家族に説明しお預かりする。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	専門部会で勉強会を行っている。誤嚥の可能性が高い入居者には食事時ワーカーが隣に座るなど配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	部会で救急時のシミュレーションを行っている。また、救急の指導員をまねいてAEDの使用方法、救急対応の勉強会を開いている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、防災訓練を年に2回行っている。消防署の立会でもある。また、近隣の方々に協力お願いし、ホーム内見学していただき、火災時などの対応、手助け方法の確認している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	誤嚥、転倒などの可能性、状態変化を随時説明している。介護方法などもお話し、ご理解をいただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、体調変化の様子観察し、変化時には申し送りの徹底、状態観察している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はすぐに確認できる場所にファイルしてある。変薬時の様子観察行っている。専門部会において薬の理解を深めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	専門部会で資料提供、勉強会行っている。便秘解消のため、プルーンや干しぶどうの摂取、一日一回麦ご飯で対応している。毎日、体操の働きかけをし、実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを支援している。義歯使用者は、毎日夜間お預かりし、洗浄している。また、訪問歯科の調整、報告行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門部会で個々の体重変化、栄養について検討。給食会議において日々の栄養、カロリーについて栄養士よりアドバイスをいただいている。必要な方は、夜間の水分摂取を行っている。毎日食品多様性表をチェックし、10品目の食材を摂取している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を入居者、ワーカーともに訪問受診にてうけている。専門部会で予防、対処の仕方を話し合っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン類使用后、塩素系漂白剤につけ置き。夜間まな板漂白。食器類その都度熱湯消毒。消費期限の厳守、作り置きはしていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花、イルミネーションの設置、入居者の作品など展示し、来客をお迎えしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、音楽のボリュームへの配慮、また、季節を感じられる展示物の作成、行事の写真をはっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファ、廊下ベンチなど好きなところでくつろげるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただき、使っていただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	終日、居室、リビングの温度調整を行い、掃除などの換気の徹底をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレの手すり設置。歩行器の使用。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	持てる力を発揮し、役割を持って生活していただけるように、見守りしながら、さりげなくフォローしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに季節の花、野菜を植え、水遣り、収穫を楽しんでいる。洗濯物を干したり、時には日光浴しながらお茶を飲む。		

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念にもりこまれている。「個々に体験した想い、暮らしていた地域、馴染みの友人、行きなれた商店、公園などをその暮らしの中で展開できる家庭に近い環境を必要としている。」		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のカンファレンス、専門部会で常時話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の自治会、民生委員、ボランティア団体に説明し、理解を頂いている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議に、自治会、ご家族、民生委員に参加していただき、話し合いの場を持っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	災害時の協力などを求めると共に、施設、入居者の状況説明を行い、理解していただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	阿波踊り見学など、自治会の協力により見学席を用意していただいている。商店、自治会、民生委員などの会議への参加。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	包括支援センターと共に介護者教室を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は専門部会ごとに関係欄を記入し、評価後、専門部会、カンファレンスで話し合っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に会議を開いている。2ヶ月間の活動報告、問題点などを話し合い、意見をいただいている。		今後も2ヶ月に一回定期的に開催し、ご家族、自治会、民生委員などの意見、アドバイスをいただいく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者を含め、グループホーム連絡会の開催。疑問点など、頻繁にコンタクトを取っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1ヶ月に1回開いている専門部会で、勉強会を開いている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加。月一回の専門部会で勉強会。入浴時全身確認、全身観察表をつけ皮下出血などワーカー全員で把握している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書に基づき説明行っている。また、見学など行い、その都度疑問点を伺い対応している。退去時には納得していただけるよう説明、働きかけ行い、退去後の支援をご家族と協力している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々、状況を見て声かけしている。ご家族の協力を得ながら、不満などはないか確認している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員異動は面会時に挨拶行う。金銭管理、請求書送付時に個人購入品レシート送付。入居者さんの状態は面会時説明、報告。体調変化については随時電話、fax連絡している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談、苦情窓口を明確にしている。面会時には随時意見を伺っている。運営推進会議においてご家族の意見をきき、反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>行事、日常業務はワーカーが主体で行うようにしている。随時ワーカーの意見をきき、また、面談も行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>4交代の勤務体制をとり、また、行事などで人員が必要なときにはワーカーを増員している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、ご家族へのダメージを防ぐ努力をしている。配置転換してもかかわりを持つなど行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を勧めている。また、一ヶ月に一回の専門部会で、拘束、介護についてなど学ぶ機会をもうけている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加。		グループホーム連絡会への参加、他施設と情報交換し、ネットワーク作りに努め、より良いサービス、方法を取り入れていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	随時相談、個別面談の実施。各部会員どうしの研修(レクレーション)への参加。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	専門部会において、各部会員の考えで運営し、自分たちの企画運営で日々の生活が行われている。役割のある仕事。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の話を傾聴、受けとめている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の悩み、思いなどを傾聴し、受けとめている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聴き、アセスメントし、その方にとってグループホーム入居が必要なのか話し合い対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来た際に他入居者と共に過ごしていただくなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	していただいたことに対し、敬意、感謝を示し役割を持って生活していただいている。レクリエーション、行事などワーカーが自ら楽しんで行うことにより、入居者さんと共有の時間を過ごしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事開催の連絡行い、ご家族にも参加していただいている。また、フラダンス、蕎麦うちなどご家族がボランティアとして活動してくれている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	随時ご家族に近況報告行い、ご家族の意見、お話を伺っている。挨拶の徹底行い、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会へご友人と外出するなど、ご家族様に確認しながら外出支援している。ご友人の面会時、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食席の配慮、また、ワーカーが間に入り入居者さん同士がコミュニケーションをとれるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族了承の元、他施設入所の方への面会。ご家族から連絡いただき、相談を受けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの人格を尊重し、いかに大切な方々であるかなど毎月の専門部会で研修し、カンファレンスで対応を話し合い、日常の介護にいかしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの確認、ご家族、入居者からの情報を共有している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月のカンファレンスで一人ひとりの変化など情報共有し、現状を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで一人ひとりモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。ご家族、主治医に近況報告しアドバイスをいただいている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンス後、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。毎日の申し送りにて緊急の対応が必要などときには、その都度対応し、申し送りの徹底を行っている。ご家族には面会時、電話連絡などで、状況報告、相談を随時行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録を個別に毎日記載。情報を共有している。個人ケースをもとに毎月の変化をカンファレンスで話しあい、統一した介護を行えるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ディサービスでのレクリエーションへの参加、包括支援センターの相談対応、退去検討時、ケアプランセンターケアマネ援助など受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアさんの訪問、消防署の協力による火災訓練など行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域ケアマネジャーからの相談の対応。訪問リハビリの調整など行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと情報交換行っている。介護者教室など協同で行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の調整、報告。主治医への状態報告、バイタル表準備など行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問診療の調整、報告。ワーカーの小さな疑問にも主治医に答えてもらっている。入居者の日常を報告し、アドバイスをいただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療看護師のアドバイス、ディサービス、包括、在支の看護師へ相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病院への情報提供行い、主治医からの状態説明などに同席している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の現状報告を随時行い、その都度、体調変化が見られた場合のこの話をしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の意見をもらい、毎月のカンファレンスで統一した介護を行えるように話し合っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族と面談行い、情報交換している。他施設への情報提供行っている。退去後の支援も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけは部会、カンファレンス、毎日の申し送りで意識するように話し合っている。記録などの個人情報保護している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者さんの自己決定の尊重、ご本人の思いを聴きだせるように関わっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>まずは入居者さんありき、と考え、一人ひとりへの支援を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理容の調整、カットの長短などご本人の希望に沿って対応している。外部をご家族と利用する場合もある。化粧の支援など行っている。行事の時にはマニキュアを塗ったり、浴衣を着て楽しんでいただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々のADLに合わせ、食事準備、片づけを行っている。立位不安定な方は座って出来る食器拭きや、理解力低下の方は一対一対応で行っていただく。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒を希望される方はいらっしゃらない。夏祭りの時にはビールを提供している。喫煙者は他入居者に配慮し、玄関ホールで喫煙している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	部会において、排泄状況検証。個々の排泄パターンを把握し、個々にあわせた下着、オムツを使用している。誘導が必要が見極め、声かけ、誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っている。ご本人の希望をきき、入りたくない日には自己決定を尊重する。皆さんほぼ毎日入浴する。入浴を楽しみにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の決定にて居室で休息している。自身の体調がわからない方は、ワーカーが様子観察し、臥床を促す。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯、買い物、調理など、役割を持っていただけるように支援している。買い物へ外出、レクリエーションなど行い楽しんでいただいている。季節の野菜の家庭菜園を行い、収穫を楽しんでいる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時など、お金を使い、支払う機会を設けている。ご家族と相談して、必要な方には数千円程度を自己管理していただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が悪くなければ、午前中、毎日の食材を買いにご本人の意向を確認して外出する。午後には身の回りの品の購入、散歩、喫茶店へ出かけるなど支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせて外出行事を行っている(梨がり、花見など)。喫茶店にでかけることもある。また、洋服などを購入しに、大きなスーパーへ買い物、食事ツアーへでかける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内電話設置できるように回線はある。現在電話を設置している方はいない。電話使用希望時にはホームの電話を利用してかけていただけるように支援している。手紙を出したい方は支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	挨拶の徹底し、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。居室で過ごすこともあれば、他入居者と共に食堂で過ごすこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	専門部会で事例検証を行い、身体拘束に対する意識を持っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	専門部会、カンファレンスにて施錠に関する話をしている。居室はご本人に確認、希望時には施錠する。玄関の施錠はご家族様に説明、ご理解をいただいている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認、見守りの徹底。夜間2時間おき、また、状況によっては頻回に巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態によって、居室内に保管してあるものが違う。入居者の様子観察し、必要ときにはご家族に説明しお預かりする。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	専門部会で勉強会を行っている。誤嚥の可能性が高い入居者には食事時ワーカーが隣に座るなど配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	部会で救急時のシミュレーションを行っている。また、救急の指導員をまねいてAEDの使用方法、救急対応の勉強会を開いている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、防災訓練を年に2回行っている。消防署の立会いもある。また、近隣の方々に協力お願いし、ホーム内見学していただき、火災時などの対応、手助け方法の確認している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	誤嚥、転倒などの可能性、状態変化を随時説明している。介護方法などもお話し、ご理解をいただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、体調変化の様子観察し、変化時には申し送りの徹底、状態観察している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はすぐに確認できる場所にファイルしてある。変薬時の様子観察行っている。専門部会において薬の理解を深めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	専門部会で資料提供、勉強会行っている。便秘解消のため、プルーンや干しぶどうの摂取、一日一回麦ご飯で対応している。毎日、体操の働きかけをし、実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを支援している。義歯使用者は、毎日夜間お預かりし、洗浄している。また、訪問歯科の調整、報告行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門部会で個々の体重変化、栄養について検討。給食会議において日々の栄養、カロリーについて栄養士よりアドバイスをいただいている。必要な方は、夜間の水分摂取を行っている。毎日食品多様性表をチェックし、10品目の食材を摂取している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を入居者、ワーカーともに訪問受診にてうけている。専門部会で予防、対処の仕方を話し合っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン類使用后、塩素系漂白剤につけ置き。夜間まな板漂白。食器類その都度熱湯消毒。消費期限の厳守、作り置きはしていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花、イルミネーションの設置、入居者の作品など展示し、来客をお迎えしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、音楽のボリュームへの配慮、また、季節を感じられる展示物の作成、行事の写真をはっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファ、廊下ベンチなど好きなところでくつろげるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただき、使っていただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	終日、居室、リビングの温度調整を行い、掃除などの換気の徹底をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレの手すり設置。歩行器の使用。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	持てる力を発揮し、役割を持って生活していただけるように、見守りしながら、さりげなくフォローしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに季節の花、野菜を植え、水遣り、収穫を楽しんでいる。洗濯物を干したり、時には日光浴しながらお茶を飲む。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全職員が専門部会に参加し各部会（排泄・不穏部会、壁画趣味活動部会、拘束部会、食事部会、行事部会、薬部会）それぞれみな意見を聴きながら企画運営している。仕事に責任を感じ、役割を持ち生き生きと仕事をしている。たとえば、排泄部会においては、失禁のある方の排泄パターンを探り、声かけ、誘導することにより、失禁減になってきている。オムツ使用開始時もどれぐらいの吸収量のものが必要か検証し、また、単価も出し、ご家族と相談して決めている。

カンファレンスにおいては各居室担当者が身体状況などモニタリング実施、それからカンファレンスに臨み話し合い、変化などを検討しケアプランにつなげている。季節を感じていただけるような行事も頻繁に実施している。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	大和YMCAグループホーム
(ユニット名)	Bユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県大和市大和東
記入者名 (管理者)	赤木 真紀子
記入日	平成 19年 10月 31日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念にもりこまれている。「個々に体験した想い、暮らしていた地域、馴染みの友人、行きなれた商店、公園などをその暮らしの中で展開できる家庭に近い環境を必要としている。」		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のカンファレンス、専門部会で常時話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の自治会、民生委員、ボランティア団体に説明し、理解を頂いている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議に、自治会、ご家族、民生委員に参加していただき、話し合いの場を持っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	災害時の協力などを求めると共に、施設、入居者の状況説明を行い、理解していただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	阿波踊り見学など、自治会の協力により見学席を用意していただいている。商店、自治会、民生委員などの会議への参加。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	包括支援センターと共に介護者教室を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は専門部会ごとに関係欄を記入し、評価後、専門部会、カンファレンスで話し合っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に会議を開いている。2ヶ月間の活動報告、問題点などを話し合い、意見をいただいている。		今後も2ヶ月に一回定期的に開催し、ご家族、自治会、民生委員などの意見、アドバイスをいただいく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者を含め、グループホーム連絡会の開催。疑問点など、頻繁にコンタクトを取っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1ヶ月に1回開いている専門部会で、勉強会を開いている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加。月一回の専門部会で勉強会。入浴時全身確認、全身観察表をつけ皮下出血などワーカー全員で把握している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書に基づき説明行っている。また、見学など行い、その都度疑問点を伺い対応している。退去時には納得していただけるよう説明、働きかけ行い、退去後の支援をご家族と協力している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々、状況を見て声かけしている。ご家族の協力を得ながら、不満などはないか確認している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員異動は面会時に挨拶行う。金銭管理、請求書送付時に個人購入品レシート送付。入居者さんの状態は面会時説明、報告。体調変化については随時電話、fax連絡している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談、苦情窓口を明確にしている。面会時には随時意見を伺っている。運営推進会議においてご家族の意見をきき、反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>行事、日常業務はワーカーが主体で行うようにしている。随時ワーカーの意見をきき、また、面談も行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>4交代の勤務体制をとり、また、行事などで人員が必要なときにはワーカーを増員している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、ご家族へのダメージを防ぐ努力をしている。配置転換してもかかわりを持つなど行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を勧めている。また、一ヶ月に一回の専門部会で、拘束、介護についてなど学ぶ機会をもうけている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加。		グループホーム連絡会への参加、他施設と情報交換し、ネットワーク作りに努め、より良いサービス、方法を取り入れていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	随時相談、個別面談の実施。各部会員どうしの研修(レクレーション)への参加。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	専門部会において、各部会員の考えで運営し、自分たちの企画運営で日々の生活が行われている。役割のある仕事。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の話を傾聴、受けとめている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の悩み、思いなどを傾聴し、受けとめている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聴き、アセスメントし、その方にとってグループホーム入居が必要なのか話し合い対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来た際に他入居者と共に過ごしていただくなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	していただいたことに対し、敬意、感謝を示し役割を持って生活していただいている。レクリエーション、行事などワーカーが自ら楽しんで行うことにより、入居者さんと共有の時間を過ごしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事開催の連絡行い、ご家族にも参加していただいている。また、フラダンス、蕎麦うちなどご家族がボランティアとして活動してくれている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	随時ご家族に近況報告行い、ご家族の意見、お話を伺っている。挨拶の徹底行い、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会時、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食席の配慮、また、ワーカーが間に入り入居者さん同士がコミュニケーションをとれるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族了承の元、他施設入所の方への面会。ご家族から連絡いただき、相談を受けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの人格を尊重し、いかに大切な方々であるかなど毎月の専門部会で研修し、カンファレンスで対応を話し合い、日常の介護にいかしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの確認、ご家族、入居者からの情報を共有している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月のカンファレンスで一人ひとりの変化など情報共有し、現状を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで一人ひとりモニタリングを行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。ご家族、主治医に近況報告しアドバイスをいただいている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンス後、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。毎日の申し送りにて緊急の対応が必要などときには、その都度対応し、申し送りの徹底を行っている。ご家族には面会時、電話連絡などで、状況報告、相談を随時行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録を個別に毎日記載。情報を共有している。個人ケースをもとに毎月の変化をカンファレンスで話しあい、統一した介護を行えるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ディサービスでのレクリエーションへの参加、包括支援センターの相談対応、退去検討時、ケアプランセンターケアマネ援助など受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアさんの訪問、消防署の協力による火災訓練など行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域ケアマネジャーからの相談の対応。訪問リハビリの調整など行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと情報交換行っている。介護者教室など協同で行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の調整、報告。主治医への状態報告、バイタル表準備など行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問診療の調整、報告。ワーカーの小さな疑問にも主治医に答えてもらっている。入居者の日常を報告し、アドバイスをいただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療看護師のアドバイス、ディサービス、包括、在支の看護師へ相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病院への情報提供行い、主治医からの状態説明などに同席している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の現状報告を随時行い、その都度、体調変化が見られた場合のこの話をしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の意見をもらい、毎月のカンファレンスで統一した介護を行えるように話し合っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族と面談行い、情報交換している。他施設への情報提供行っている。退去後の支援も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけは部会、カンファレンス、毎日の申し送りで意識するように話し合っている。記録などの個人情報は保護している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者さんの自己決定の尊重、ご本人の思いを聴きだせるように関わっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>まずは入居者さんありき、と考え、一人ひとりへの支援を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理容の調整、カットの長短などご本人の希望に沿って対応している。外部をご家族と利用する場合もある。化粧の支援など行っている。行事の時にはマニキュアを塗ったり、浴衣を着て楽しんでいただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々のADLに合わせ、食事準備、片づけを行っている。立位不安定な方は座って出来る食器拭きや、理解力低下の方は一対一対応で行っていただく。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒を希望される方はいらっしゃらない。夏祭りの時にはビールを提供している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	部会において、排泄状況検証。個々の排泄パターンを把握し、個々にあわせた下着、オムツを使用している。誘導が必要が見極め、声かけ、誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っている。ご本人の希望をきき、入りたくない日には自己決定を尊重する。皆さんほぼ毎日入浴する。入浴を楽しみにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の決定にて居室で休息している。自身の体調がわからない方は、ワーカーが様子観察し、臥床を促す。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯、買い物、調理など、役割を持っていただけるように支援している。買い物へ外出、レクリエーションなど行い楽しんでいただいている。季節の野菜の家庭菜園を行い、収穫を楽しんでいる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時など、お金を使い、支払う機会を設けている。ご家族と相談して、必要な方には数千円程度を自己管理していただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が悪くなければ、午前中、毎日の食材を買いにご本人の意向を確認して外出する。午後には身の回りの品の購入、散歩、喫茶店へ出かけるなど支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に合わせて外出行事を行っている(梨がり、花見など)。喫茶店にでかけることもある。また、洋服などを購入しに、大きなスーパーへ買い物、食事ツアーへでかける。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内電話設置できるように回線はある。現在電話を設置している方はいない。電話使用希望時にはホームの電話を利用してかけていただけるように支援している。耳の遠い方はワーカーが代わりに話して通訳している。手紙を出したい方は支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	挨拶の徹底し、訪問しやすい環境を整えるように配慮している。居室で過ごすこともあれば、他入居者と共に食堂で過ごすこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	専門部会で事例検証を行い、身体拘束に対する意識を持っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	専門部会、カンファレンスにて施錠に関する話をしている。居室はご本人に確認、希望時には施錠する。玄関の施錠はご家族様に説明、ご理解をいただいている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認、見守りの徹底。夜間2時間おき、また、状況によっては頻回に巡回している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態によって、居室内に保管してあるものが違う。入居者の様子観察し、必要ときにはご家族に説明しお預かりする。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	専門部会で勉強会を行っている。誤嚥の可能性が高い入居者には食事時ワーカーが隣に座るなど配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	部会で救急時のシミュレーションを行っている。また、救急の指導員をまねいてAEDの使用法、救急対応の勉強会を開いている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、防災訓練を年に2回行っている。消防署の立会でもある。また、近隣の方々に協力お願いし、ホーム内見学していただき、火災時などの対応、手助け方法の確認している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	誤嚥、転倒などの可能性、状態変化を随時説明している。介護方法などもお話し、ご理解をいただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、体調変化の様子観察し、変化時には申し送りの徹底、状態観察している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はすぐに確認できる場所にファイルしてある。変薬時の様子観察を行っている。専門部会において薬の理解を深めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	専門部会で資料提供、勉強会を行っている。便秘解消のため、プルーンや干しぶどうの摂取、一日一回麦ご飯で対応している。毎日、体操の働きかけをし、実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを支援している。義歯使用者は、毎日夜間お預かりし、洗浄している。また、訪問歯科の調整、報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門部会で個々の体重変化、栄養について検討。給食会議において日々の栄養、カロリーについて栄養士よりアドバイスをいただいている。必要な方は、夜間の水分摂取を行っている。毎日食品多様性表をチェックし、10品目の食材を摂取している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を入居者、ワーカーともに訪問受診にてうけている。専門部会で予防、対処の仕方を話し合っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン類使用后、塩素系漂白剤につけ置き。夜間まな板漂白。食器類その都度熱湯消毒。消費期限の厳守、作り置きはしていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花、イルミネーションの設置、入居者の作品など展示し、来客をお迎えしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、音楽のボリュームへの配慮、また、季節を感じられる展示物の作成、行事の写真をはっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファ、廊下ベンチなど好きなところでくつろげるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただき、使っていただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	終日、居室、リビングの温度調整を行い、掃除などの換気の徹底をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレの手すり設置。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	持てる力を発揮し、役割を持って生活していただけるように、見守りしながら、さりげなくフォローしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに季節の花、野菜を植え、水遣り、収穫を楽しんでいる。洗濯物を干したり、時には日光浴しながらお茶を飲む。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全職員が専門部会に参加し各部会（排泄・不穏部会、壁画趣味活動部会、拘束部会、食事部会、行事部会、薬部会）それぞれみな意見を聴きながら企画運営している。仕事に責任を感じ、役割を持ち生き生きと仕事をしている。たとえば、排泄部会においては、失禁のある方の排泄パターンを探り、声かけ、誘導することにより、失禁減になってきている。オムツ使用開始時どれぐらいの吸収量のものが必要か検証し、また、単価も出し、ご家族と相談して決めている。

カンファレンスにおいては各居室担当者が身体状況などモニタリング実施、それからカンファレンスに臨み話し合い、変化などを検討しケアプランにつなげている。季節を感じていただけるような行事も頻繁に実施している。